

会 議 録

会議の名称	平成30年度(2018年度)第4回豊中市立図書館協議会		
開催日時	平成31年(2019年)3月20日(火)18時00分~20時00分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	☑・不可・一部不可
事務局	読書振興課 岡町図書館	傍聴者数	2人
公開しなかった理由			
出席者	委員	松田 美和子 舟岡 直子 岸本 岳文 瀬戸口 誠 有本 恵子	
	事務局	吉田教育委員会事務局長 北風岡町図書館長 須藤庄内図書館長 虎杖千里図書館長 松井野畑図書館長 萩原岡町図書館副主幹 山根岡町図書館副館長	
	その他	欠席：尾崎委員 吉岡委員 天瀬委員 渥美委員	
議題	1. 中央館構想と豊中市立図書館における施設配置のあり方について 2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

平成30年度（2018年度）第4回図書館協議会 記録

日時：平成31年（2019年）3月20日（水）18時～20時

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者：（敬称略）

委員：松田 舟岡 岸本（委員長） 瀬戸口 有本

事務局：吉田 北風 須藤 虎杖 松井 萩原 山根

開会

資料確認

●委員長

図書館協議会の運営方法について、豊中市では原則的に会議を公開し傍聴の定員は10人としている。本日も2名の方が傍聴しているが、定員を超えた場合は状況を見ながら私のほうで判断させていただくということによろしいか。傍聴の方にはアンケートをお願いしており、特に委員の皆様にお伝えすべき内容は報告させていただく。

前回会議録については、事前に送付されたものにご意見等は無かったので、概要として、発言者については個人名を掲載せず「委員」とのみ表記し公開することを了承いただきたい。本日の議題「中央館構想と施設配置のあり方について」事務局から説明をお願いする。

●事務局

「豊中市立図書館における中央館機能について意見書（第1稿）」へのご意見と、それに対しての事務局案を説明させていただく。【資料1】。

「パート」という名称が分かりにくい点については「担当セクション」に変更。目次については最終的に整った時点で検討したい。「市民協働の推進」を大きな分類として、利用者への直接のサービスとバックヤード機能に分けるという構成を大きく変更する提案と、サービス全体について「1. 全般」よりも「1. 概要」のほうがよいという意見については本日もご検討いただきたい。

中央館機能に対しての「現状と課題」という切り口について、課題を無理やり出したような印象や、マイナスイメージが表に出ているという意見があり、第2稿では、現状から課題を「めざす方向」としてプラスのイメージで表現するよう修正した。現状からめざすべき方向を矢印で結び、関係が分かるように整えている。

「はじめに」について、協議会の議論で核となる部分で、意見書で一番何を伝えたいかを書くべきとして委員からの代案もいただいた。具体的には、「地

域館が充実してこそその中央館。地域館を充実させる中央館機能。」ということ
を明記すべきという意見を受け、事務局で「はじめに」と「おわりに」を修正
した。「はじめに」では、施設再編の検討の必要性から中央図書館的機能の必
要性が生じて、それによって中央図書館機能の検討に至ったという、今回の経
緯と協議会での議論の位置付けを明確にしている。2年間の議論を通してあが
っていた「より効率化をめざしながらも豊中市の図書館サービスを、総体とし
て質を落とさないようにすべき」ということを「おわりに」で書き加えた。

次に、「はじめに」とサービス毎の中身がつかないという意見に対し、
議論の過程として図書館サービスを7つの視点に分け、それぞれのサービス毎
に中央館機能を検討し、現状を振り返り効率化を図りながらサービス向上をめ
ざす方向性を示し、中央館と地域館・分館との役割分担を議論したということ
を付記した。

本文について、「強調するところが見えにくい」「中央館と分館の役割分担以
外の図書館全般に対する意見が混在している」等のご意見があった。第1稿で
は、議論の中であがった中央館と地域館・分館の機能分担に振り分けられない
視点を、7つのサービス毎に「(今後に向けた)留意点・視点」としたが、サー
ビス毎に重複する意見が多く見られたため、「(今後に向けた)留意点・視点」
を「1.全般」にまとめた第2稿となっている。

新たな提案としては、「7.職員(研修・人材育成)」で他府県等の図書館との
人事交流や、北摂全体での図書館の再配置の検討、再配置を考える時に分館で
はなく受け渡し場所という考え方もある等、ご意見をいただいた。本文に盛り
込むかどうか今日ご議論いただきたい。

「2.資料収集・保存」の「2-3 地域館・分館機能」の「各館の規模に応じた
レファレンスコーナーを設ける」について、各館の規模が抽象的で多様な解釈
があるという意見に対して、現状でも地域館・分館のレファレンスコーナーは
館の規模に応じてかなり違っており、「どのくらい」というような具体的な記
述は難しい。「5.利用者に応じた図書館サービス」の「5-3.地域館・分館機
能」で、エリア内の学校やこども園からのレファレンスや資料依頼の対応につ
いては、中央館と地域館の双方に連絡が必要となるような受け止めになる点に
ついて、「エリア内の施設や団体からの資料依頼やレファレンスの相談窓口と
して中央館と調整し対応する」と修正した。

最後にバランスト・スコアカード(BSC:価値創造につながるような情報資源
の蓄積が財務的尺度では適切に反映されないことから1990年代に生まれた新
しい業績測定モデル)の具体的な提案をいただいた。図書館評価にも関わる視
点で、今すぐにこれを採用というよりは、今後評価システムの参考にさせてい
ただきたいと思っている。

●委員長

委員の皆様には貴重な意見を寄せていただきありがとうございました。事前送付したのから修正が入っているが、これまでの経緯も含めて少しご意見等いただければと思うがよろしいか。

●委員

今回第2稿を見て最初の意見書より改善され「おわりに」を付け加えることによって流れが良くなったと思う。印象だが「はじめに」と「おわりに」だけでよいのではと思ってしまう。というのは、ストーリーの一番大事なところをもたもたしている印象を受ける。文章にとって流れは大事だ。

「はじめに」の3段落目、上から2行目に「中央館機能の不在が焦点になってきました。これを受けて」とあるが、「中央館機能の不在が焦点になってきました。」までは行政の話だ。「これを受けて図書館協議会として」という流れで段落を変えたほうがよい。もう一点「中央館機能の不在」とあるが、豊中では4地域館を中心に役割分担しており機能の不在ではない。「中央館機能の不在が焦点となってきた」という表現が気になった。

「はじめに」からいきなり「図書館の現状とめざす方向」となるので、中央館機能について話す前に「図書館の現状を見てみましょう」というような導入の文章があるとよい。又は、「はじめに」と本文の間にもう一つタイトルがあり、なぜこういうサービス毎の分類が出てきたのかが伝われば、違和感が少なく良い展開になると思う。同様に、最後の「おわりに」の前にも、何かつなぐ文章が必要かと思う。

●委員長

「はじめに」の下から2つ目の段落に「7つの視点に分けて」という説明を追加し次につなげようとしているが、この部分を本文「1.全般」前に移動させてはどうか。

●委員

「はじめに」は今のままの文章で、「7つの視点に分けて検討しました。」という段落を、実際に検討した本文の頭に付けるということですね。その方が流れが良くなると思う。同じように「おわりに」のところも工夫できないか。

●委員長

「1.全般」から「7.職員（人材育成・研修）」を結ぶ文章が必要ということ

か。具体的な提案があれば出してもらいたい。

●委員

「個々の部分について検討を重ね」や「洗い出された観点を踏まえ」等の書き出しで、「おわりに」へのクッションになる文章があれば断絶感が少なくなり、読んだ時にスッと入ってくると思う。

●委員長

「はじめに」があり、「どういう考え方で検討をしたか」という前文、具体的な項目毎の本文があり、「以上の事柄を検討した結果云々」というような分章があって、「おわりに」という流れか。

●委員

考察の部分があって最後に「おわりに」という流れがよい。

●委員長

このままでは本文が漠然としているので、最後に締めるような構成に。

●委員

良い文章はスッと入ってくる。折角ここまで2年間議論を続けてきた意見書を、読みやすい美しい形で締めるのがよいと思う。

●委員

「2.資料の収集・保存」の内容が理にあっていて流れが非常にスムーズだ。現状の問題とめざす方向があり、中央図書館機能と地域館・分館機能の役割分担がよく分かる。これは図書館職員が実際やっていることなので腑に落ちる。他の項目では、事実が並んでいるだけで何をどうしたいのか分かりにくい。

「めざす方向」とは書いてあるが、現状とめざす方向がつながっていない感じがする。「2.資料の収集・保存」以外の市民協働に関わる部分では、やはり利用者の側からの視点で流れを考える方がよいが、今日の時間内にするのは難しいと思う。

「はじめに」のところで、行政側の前提から、突然協議会の議論に話が飛ぶが、その間が本当はあるはずだ。「中央館機能の不在」に対しては、「本当に不在なのか、なぜ不在だったらまずいのか。」という疑問がある。会議の中でも同様の意見はあったと思う。市民の側としては中央館でも分散型でもどちらでもよい。中央館が必要ということは市が決めたことなので、市に説明責任があ

ると感じる。

それぞれのサービスに関しては、「絶対外せない」とか「どちらかというとやってほしいが絶対必要ではない」等、重みの優劣が多少あった方がよいと思うが、委員毎にいろいろな意見もあるだろう。その判定をどうするかということでバランスト・スコアカードを提案した。財務、市民、バックヤード、学習と成長の4つのビジョンを説明して、それを実現するために必要なサービスをあげ、なぜそのサービスが必要なのかというサービス間のつながりを図で示していく。サービスとサービスのつながりを関係図で見ると、浮いてくるものがあり判定がしやすくなる。浮いているが絶対必要というものもあれば、今回の意見書からは外すというものも出てくる。全サービスの関係図を作って、今回は無理としても、市民目線で本当に必要なサービスかどうか評価する尺度を作ると、それがどの程度実行されているか市民の目から見て非常に分かりやすくなるのではないか。こういう考え方・見せ方・説明の仕方もあるという形で提案した。やはりサービス間の関連が分からないと、どれを重点にしてどれを縮小するか等、優先順位もつけにくいと感じる。

●委員長

意見書の中のメリハリをどう伝えていくかだと思う。資料の収集・保存については、具体的には中央館に本が大量に集積されるイメージを持ちやすい、それによるメリットも分かりやすい。それ以外の部分については「中央館だからどうなるのか」ということが具体的なイメージとして捉えにくく、「別にそうじゃなくてもよいのではないか」という議論に流れる。協議会では、資料の収集・保存以外の部分についても、中央館という機能を据えることによってどのように変えられるか、あるいは、中央館から派生してどのように充実してくるか、どういったメリットが生まれてくるか、という議論をしてきた。中央館機能の分かりにくさについては、議論の掘り下げが十分でなかった部分もあるが、資料収集の話だけではなかったと思う。中央館を出すことによって少なくとも変えられる部分、少しでも良くなる部分については、意見書に盛り込む形でまとめていった。伝え方については、もう少し工夫が必要かと思う。

評価に関わる提案については、今回の意見書に反映するには始めからやり直さなければならない。豊中の図書館は、他の図書館に比べると非常に早い時期から自己点検・自己評価に取り組んできたが、常にどういった方向で評価を行っていくのか見直しが必要だ。それぞれのサービスの関係性を踏まえた上での評価という提案は今後活かしていくべきだろう。同時に、豊中市の図書館評価が市民の目線で行われた時に、それを市民にどう伝えるかという工夫に、ご指摘を活かしていくことが求められる。今回は議論をやり直すことは難しいの

で、評価につながる提案としていただいております。

●委員

「1.全般」の「1-4.（今後に向けて）留意点・視点」で、1つめが今後に向けての「市民ニーズの把握 地域の情報の収集」、2つめが「図書館の情報発信/PR」となっている。市民ニーズの把握について「地域館・分館の職員が地域へ出て、市民・地域とのつながりの中で情報を得ることが求められている」とある。これは現状取り組んでいることかと思う。敢えて書くのであれば、ニーズ把握をどうするかというところの方向性があったほうがよい。後の「情報発信/PR」のところに「関係部局・機関との連携」がうたわれているが、情報発信に加えてニーズの把握についてもそういったことがあるほうがよいかと思う。また、「図書館の情報発信/PR」に「図書館利用の多様性」とあるが、これだけではよく分からなかったのでご説明いただきたい。

●事務局

「留意点・視点」は、主に議論の中で委員からあがった図書館全体に関わる期待や希望等をまとめたところである（平成30年度第3回図書館協議会資料【中央館と地域館・分館の機能分担案】の右端欄）。「図書館利用の多様性」に関しても、委員の皆様から、一般利用だけではなく学校も含めた利用のされ方は今後も大事にすべきだ、というご意見であったかと思う。

●委員長

ここは説明を入れておいたほうがよいのではないかと。「1-4（今後に向けた）留意点・視点」は、皆さんが議論している過程で様々なものが出てきて、この本文の中に当てはめていくとはみ出る部分があるが、出てきた声を大切にしたいということで、他の章は「現状とめざす方向」と「中央館機能」と「地域館・分館機能」の3つの項目で分けているが、1章だけ4項まで作って、皆様のご意見で是非ここに残しておきたいというものをまとめた。読んでいただいた時に分かりにくい部分については補足説明も必要かと思う。

●委員

「7つの視点に分けて」というのが「はじめに」の部分ではなく「全般」の冒頭というものは、その通りだと思う。協議会では常に学校図書館との関連で公共の図書館が機能するようという視点で意見を出してきたが、それぞれのところで、これがそういう風につながるということが読み取れたので、読みやすく整理されていると思う。簡単ではあるが、具体的に全部書き出すと

ないので、まとめた文章だからこうなるのか、という印象で読んだ。

●委員長

今回は、本文の部分は、ある部分だけ取り出して間違っただけで引用されることのないように、文章ではなく簡潔に箇条書きで並べている。論点が間違いなく読んで伝わることを基本とした作り方になっているので、抽象的な表現はあるかと思うが、基本的な部分をストレートに間違いなく伝えたいというスタンスで作成した。そうした中で、委員からご意見いただいたことについて、特に漏れている部分がないということによろしいか。押さえるべきところは押さえたということであれば、なんとかまとめられたのだと思う。他に補足はありますか。

●委員

中身をできるだけ簡素化して誤読されないように、という趣旨で書かれたと聞けば納得するが、それを知らずに読んでみると違和感があった。例えば「1-4. (今後に向けて) 留意点・視点」のところで「図書館のあり方・強みを大切に」とあるが、「豊中の図書館のあり方・強みを大切に」の「する」をどうして書かないのだろうか、と疑問に思う。最後まで文章をきちっと書いた方がよいのではないか。授業中に学生が書く箇条書きのメモのようになってしまっている。「図書館のあり方・強みを大切に」の後に「する」の二文字を入れるだけで印象が変わると思う。同様に、下から3行目のところでも「市民が学んだことを社会に還元する仕組み」で終わっている。それをどうしたいのか、というところまで書いた方が逆に誤読されずに済むと思う。例えば、「仕組みを発展させ、構築する。」という形にするのはどうか。箇条書きは多用しすぎるとメモになってしまうので、きちんとした文章にしたほうがよい。簡略化すべきところとしてはいけないところがあり、読んでいて違和感があった。

「1-4. (今後に向けての) 留意点・視点」を1章にまとめた点について、読んでいてもその思いが伝わって来なかった。2章では、どうして今後の留意点・視点が省かれているのかと思ってしまう。省くことも大事だと思うが、当然書かれているであろうと予想して読むのに、それが無いことの違和感が残った。省略すべきところは省略してもよいが、省略すべきでないところが省略されていると、逆に読む側には違和感と受けとられるかもしれない。

●委員長

構成は各章3項までだが、1章だけが4項までである。皆さん方からご意見を聞きまとめようとした時に入れる場所が難しく、省いてしまうと議論してきた

このかなり大切な部分が抜け落ちてしまう恐れがあった。括弧付きの「(今後に向けての) 留意点・視点」という現在の構成は伝わりにくい。7章の後ろに文章が必要という意見があったが、「おわりに」の前に持ってくるというのはどうか。整合性のある構成にしつつ、大切なことなので伝えたい部分であるので1章に4項として置いた経緯がある。全体としてこういった視点を大切にしたいうえで今後のことを考えていくべきだ、というような文章にすれば、1章から7章を締める文章となるのではないか。箇条書きを修正し、一つのきちんとした文章として「おわりに」の前に置くのはどうかと今考えている。

●委員

そうした方が文章全体のすわりがよい。

●委員長

最初に「はじめに」があり、7つの視点でこういう風に考えるということを書き述べ、1章から7章まで「現状とめざす方向」「中央図書館機能」「地域館・分館機能」の3つの項目でまとめていき、これらを検討してきた中で特に大切なことや浮き彫りになってきたこととして、各章には関わらないけれど中央館を考える上では押さえておくべき事柄として文章化したものを7-3の後に置く。「おわりに」は現状通り最後に置く。これで流れが作れるか。

●委員

特に地域館・分館の活動をバックアップする中央図書館構想というのは、軽く触れられているだけだが、最も大事なことなので、間に埋もれさせてしまうよりは、際立たせた文章であるべきだと思われる。各館が自主的な主体性を求めていく仕組みが大切で、中央図書館には地域の活動をバックアップする機能が求められる。これが最も大事な文章だと思うので、この文章を核にして「おわりに」の前に入れるという流れがよいと思う。

●委員長

現状の「1-4. (今後に向けた) 留意点・視点」では、豊中の図書館の強みというのがあること、その強みを活かした上での中央図書館があるという2つの要素が入っている。その下に記載されている「社会に還元する仕組み」や「連携の仕組み」等は上に移動させてはどうか。最後に重点として、この豊中の強みを活かした上で、更に強みを持った地域館活動をバックアップする中央図書館の構想が求められる、というような形で結び、「おわりに」の文章が来る。

●委員

読み手に受け入れられやすい文章になると思うので、それがよいと思う。

●委員長

現状では、「1-4. (今後に向けた) 留意点・視点」がどのような位置付けになっているのか読み取りにくい部分があり、付け足しのようにも見える。全体の中の非常に大切な部分なので、1章から7章全体を通した上で更に大切なことという形で後に置いた方が収まりがよく読み手に伝わると思う。その形で、もう一度整理し直してみるのはいかがでしょうか。ご発言があればお願いしたい。

●委員

7章の後ろに置けば、今ある括弧を取って「今後に向けて大切にしていきたい留意点・視点」として、大事なことが書かれている文章という位置づけとなり、「おわりに」につながる。

●委員長

議論を通して今後に向けて大切なこととして、文章を最後に付ける形で工夫するということによろしいか。そのほうが読んだ時の重みが増す。この項目は、いろいろな発言を整理していった時に、どこにも入れられなかったが大切にするべきだということで拾った視点だったので、是非残しておきたい事柄ということで入れた経緯がある。それを活かす形でまとめる。ほかにご意見はないか。では、手元の【資料3 (差し替え)】「豊中市立図書館における中央館機能について意見書 (第2稿)」を、今ご議論いただいた内容で、もう一度修正する形でまとめてよろしいか。

●委員

「1-1. 現状とめざす方向」で、1章だけが表になっているが、この表で必要なのは兼務という点だけだと思う。兼務になっているから中央館という論拠になっている部分だと思う。兼務のために非常に動きづらいということを図で示したうえで中央館が必要、という形に持って行くと非常に分かりやすくすっきりする。文章でたくさん書かなくても分かりやすくなると思う。

●委員長

それぞれの担当セクションを図示して重なり具合を示す等か。

●委員

兼務で重なっているということを示す図であればよい。具体的な業務の内容は無くてもいい。こういうサービスがあるということを示す必要も必然性も無いのではないか。最初に、図で目立つように示してしまえば、その後の流れがうまくいくように思う。

●委員長

個々の項目を具体的にあげる必要はないということか。全館で兼務しながらやっているということを示せば、個別にそれぞれの業務、担当セクションを全部ここであげなくても文章全体としては伝わるのではないか。例えば、全館で横断的に行っている業務にはこういったものがあり、各館で対象別に担当しているセクションにはこういうところがある、と文章で述べてはどうか。

●委員

文章でもよいが、図で何が問題なのかをはっきりさせておく方がよい。一目で見て分かる図は必要ではないか。

●事務局

ここを表にしたのは、議論の中で今、中央館でないと出来ないことは何か、というご質問や、集中化がどういうことを示しているのか分かりにくいというご意見をいただいたので、現在施設は分かれているがそれぞれにやっていること、また横断してチームとしてやっていること、今は中央館という体制を置かずに全域サービスを担っていることを示した上で、中央館を置いたらどうなっていくかを分かりやすくする意図だった。文章にしてもすっきりしないので、例示を少なくするのはどうか。

●委員

例えば、各館の図があって、中央館にしたら兼務の状況がどういう形になるのか見て分かりやすくなればそれでよいと思う。内容を書くのであれば図の外枠に書けばいい。この図が何を示しているか分かりにくかった。ポイントがなにかというところが一番問題なのではないか。

●委員長

表だと目に入りやすいが、この表は一体何だろうという印象を受ける。他のところは表が無いのに、ここだけ表があるから大事なことかと思ってしまう。読む人に意図が伝わらないという指摘か。

●委員長

個別に各館で取り組んでいるものと兼務のものを図式化するような形で入れたほうが捉えやすいと思う。文章中には、「横断するチームで事業を実施している」とあるが、「兼務」が出てこない。「個別に行っている業務と、兼務で豊中全体としてサービスのためのチームを作って行っている業務がある。」という形で、表の説明を文章でいれてはどうか。

●委員

兼務していることで、どこが問題点なのかということを軽く触れるとよい。

●委員長

全館を横断している業務について、チームや委員会という図書館の分け方で説明する必要は無い。全館を横断した仕事にどのようなものがあるのかが分かればよい。図書館の分け方で分けても、却って無関係な情報が入り伝わりにくくなる。シンプルなほうがよいと思う。個別で行っている業務と、それ以外に豊中全体で職員が横断的にチームを組んで取り組んでいる業務があるということが、ここで分かればよい。1章の最初に出てくる表なので唐突な感じになってしまう。もう少し工夫してはどうか。他にご意見あれば。

●委員

分かりやすく表や図にするにしても、間違った捉え方をされないように細心の注意が必要だ。特に図式化は、都合良く取られる道具になる可能性もある。文章であれば言い切ってしまうところを図式化してしまうと、都合の良いように使われる可能性もあることを意識して作業し、きちんと伝わる形にしなければならない。

●委員長

表になっているので目立つが、何を言いたいのか伝わらず、なぜこの表があるのかという風に捉えられかねない。それであれば伝わるものにするべき、ということだと思う。ここは工夫が必要かと思うので、省略することにならないように気を付ける必要がある。他にご意見はないか。

私たちがこの2年間議論をしてきたまとめとなる。見せ方や表現の仕方についてはより分かりやすく伝わるような工夫について様々なご指摘を今回いただいたので、そうしたことを踏まえて、もう一度【資料3（差し替え）】「豊中市立図書館における中央館機能について意見書（第2稿）」について手を加えたいと思う。私のほうで事務局と相談して、本日いただいたご意見については活

かしたいと思う。最終的にご一任いただき、その結果を報告するという形でご了解いただきたいがよろしいか。できれば年度内に協議会の意見書として提出したいと思う。委員の皆様にもう一度お諮りできればよいが、時間的にかなり厳しい。委員あつての会議なので申し訳ない部分もあるが、本日のご指示やご意見を踏まえて、本日欠席の方にはいただいたご意見を伝えられるものについてはお伝えしてご意見を聞いた上で、事務局と相談して私のほうで最終案をまとめる。皆様には速やかに最終の報告ができるように進めたい。いろいろとご意見をいただき、ご協力感謝いたします。

それでは、中央館構想と施設再編のあり方についての検討はここまでにして、その他の案件について事務局から報告を。

●事務局

「庄内地域における魅力ある学校づくり通信 平成31年3月号」を当日資料としてお渡ししている。(仮称)南部コラボセンターには、庄内図書館と庄内幸町図書館が発展的統合されて新たにできる図書館が入る予定。横に建設予定の(仮称)北校について、名称が「庄内さくら学園」となった。(仮称)北校と(仮称)南部コラボセンターの基本設計等に関する説明会が3月23日(土)午前10時からと、26日(火)午後6時半から開催される。(仮称)北校と共に(仮称)南部コラボセンターに入る図書館の概ねの基本設計やフロアイメージをある程度ご覧いただける初めての機会となる。そのフロアイメージを元に、来年度は実施設計に進む予定。

●委員長

今の事務局の説明に対してご質問・ご意見等はあるか。南部コラボセンターの(仮称)の部分もこの後決めていくのか。

●事務局

今まで南部コラボセンターの図書館、その他の複合施設について、ワークショップ等を積み重ねてきた。基本設計に至るまでに今年度も4回、学校や地域でワークショップを積み重ねてご意見をいただいている。基本設計から進んで、書架をどうするか等は内部で話を進めていき、折に触れて皆様に見ていただくという形になると考えている。

●委員長

それが進むと、新しい正式名称も決まるということで楽しみである。それでは、平成30年度第4回豊中市図書館協議会を閉会いたします。次回以

降の予定等について。

●事務局

2年間のご議論本当にありがとうございました。ご意見に関しては中央図書館構想だけではなく、現在の今の体制の中でもいろいろ考えるべき視点等をいただけてきたかと思うので、中央館を待たずに現状の図書館サービスにも是非反映させていきたいと考えている。

この議論を始めるにあたっては、「中央館構想と施設配置のあり方について」という名称を協議会の議題とさせていただいたが、今回の意見書については「施設配置のあり方について」ではなく、「豊中市立図書館における中央図書館構想についての意見書」の方が中身にふさわしいと思っている。これをもって今後の施設配置のあり方について考える前提という位置付けとなる。議論の中身としては、中央図書館を考える上での分館と地域館の役割分担が入っていたが、「施設配置のあり方」という具体的な点ではなく、機能を議論していただいた。「豊中市立図書館における中央図書館構想についての意見書」というタイトルにさせていただいてよろしいか。

最後になったが、今回をもって今年度の協議会は終了となる。皆様におかれましても、平成31年(2019年)6月30日までの任期ということではあるが、任期中今回が最終の協議会となる。本当に貴重なご意見ありがとうございました。また委員の改選等も含め、今後ともよろしくお願いします。

●委員長

2年間、今期の図書館協議会にお付き合いいただきましてありがとうございました。良い形で議論ができ、意見書をまとめることができたと思う。委員会を開催しないが6月30日まで任期が残っているので、委員としての立場で図書館に様々なご意見・ご提言等をお寄せいただき、委員としての自覚を持って務めていただきますとありがたいと思う。本当にありがとうございました。これで本日の会議を終わらせていただきます。